

○この度の熊本地震で被災された方々に、改めてお見舞い申し上げます。また、本校の体育館も避難所となり、今も不自由な生活を続けておられる方々もいらっしゃいます。地域の学校として、できることは少ないですが協力しながら、一日も早い復旧・復興につながれたいと思います。

さて、学校を再開して2週間となりますが、体育館以外での教育活動は実施しております。熊本地震で遠方に避難していた生徒も、なんとか登校できている状況にあります。まだまだ完全に元の生活に戻ったわけではありませんが、少しずつ回復に向け取り組んでいきたいと考えます。

そのような中ですが、夏休み中の嬉しいニュースもありました。部活動では、県中体連優勝を果たし九州大会に進んだ女子卓球部が5位に入賞しました。地震で思うように練習ができない中、もう少しのところで全国大会を逃しましたが、笑顔で帰ってきてくれたことが何よりでした。

また、クラブ活動として、7月25日・26日に行われた全日本ジュニアテコンドー全国大会「プムセ(型)」有段個人において、3年生の 汐崎 然 さんが優勝し、最優秀選手にも選ばれました。汐崎さんは、9月に韓国で行われる世界大会にも出場します。世界大会での活躍も期待しています。



○8月31日(月)に、この度の熊本地震を受けて、以下のような思いを生徒に話しました。

2度目の熊本地震を受けて、忘れていた記憶、大切なことを思い出しました。1つめは、日常の大切さです。蛇口を捻ると水が出ることや、スイッチを押すと電気がつくことなどのありがたさです。

2つめは、地域でのつながりの大切さです。宇城市には防災センターがありますが、防災センターが無い地域もあります。防災センターが無い地域でも、地域の公民館や体育館等に被災された方を受け入れ、被災者に寄り添った運営をされています。

2つのことから、前回の熊本地震から防災・減災の取組が進んでいることを感じました。その中で、大切なことは、地域や社会を支えている人と人のつながりであると考えました。

道路や水道、電気、ガソリン、食事を安全に私たちに届けてくれている人たち、防災センターで働いてみんなを支えてくれる人たち、多くの人たちの支えやつながりで社会や地域は成り立っています。そんな当たり前のことですが、それが如何に大切なことであるかに、あらためて気づかされました。

皆さんには、人と人のつながりを大切にできる。困っている人に寄り添い、支える側に立てる。そんな人に成長してほしいと思います。学校には、立場や環境が違う中で生活している生徒が通って来ています。みんな支え合える学校にしていきたいと考えます。